

令和4年11月定例県議会の概要について

概 要

「一般質問」での教育委員会関係の主な質疑応答

小林 克敏 議員

ミライオン図書館の大村市移転による成果について

(1) 大村市移転による成果とまちづくりへの貢献について

開館から3年が経過した、ミライオン図書館の現状について、来館者数や貸出冊数、全国の都道府県立図書館の中での位置づけはどうなっているかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

ミライオン図書館への来館者数につきましては、令和元年度が10月オープンからの半年間で約26万4千人、令和2年度が約32万5千人、令和3年度が約37万4千人であります。

貸出冊数でございますが、令和元年度が約52万冊、令和2年度が約82万冊、令和3年度が約92万冊、うち個人貸出冊数は約86万冊となっております。

都道府県立図書館といたしましては、日本図書館協会の速報値では、来館者数は全国7位、個人貸出冊数は全国2位となっております。

・旧県立図書館と比べて、市外からの利用状況や利用者の年代はどうなっているのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

利用者の居住地につきましては、旧県立図書館では市外からの利用者が全体の1割程度であったものが約3割へと増加しております。

また利用者の年代につきましては、専用の学習スペースを十分に確保したことによりまして、10代の中高生の利用が増え、また、子供用の閲覧席や子供トイレなど親子が利用しやすい設備の充実によりまして、30代から40代の子育て世代の利用が増えるなど、利用者の年代の幅が広がっているところでございます。

ミライオン図書館は社会教育施設のひとつであるが、同時に、地域のまちづくりにも大きな影響を与えるものとする。長崎県や大村市のまちづくりに対して、どんな貢献が考えられるのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

ミライo n図書館につきましては、県市一体の図書館となりますことで、蔵書の充実が図られますとともに、幅広い分野でのイベントや講演会等が実施されるなど、新たな魅力や価値を創出することができているものと考えております。

その結果、昨年度の来館者数の月平均は約3万人となっておりますが、これは人口約9万5千人の大村市におきまして、人口の約3分の1にあたる人流が毎月生まれるということですので、まちの活性化にも還元しているものと思っております。

また、ミライo n図書館は、先ほどのお話にございましたとおり、全国有数の蔵書数を持ちます知の拠点でありますとともに、環境にも配慮した優れたデザイン、これは大村、また長崎のまちのシンボルとして定着しております。そういったことを考えますと本当に地域の皆様にも愛される図書館に育っているということを実感しているところでございます。

- ・今後取り組む課題として、デジタル社会の到来の中、どんな対応を考えているのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

ミライo n図書館につきましては、これまで、県内全域での利用を支援するため、各地域の図書館と連携しました「返却サービス」或いは「お取り寄せサービス」を実施してきたところでございます。

来年2月からは、電子図書館サービスを開始することとしておりますので、離島半島地区にお住まいの方や、仕事や子育て等で来館が難しい方などにも、より便利にご利用いただけるようになります。

このようなデジタル社会に対応する取組を通しまして、県内全域の皆様にご利用いただき、より一層愛されるミライo n図書館を目指してまいりたいと考えております。